



久慈湾港防波堤大きなクレーン船が小さく見える。人間は小さすぎてこの写真では見えない。久慈湾が締め切られれば、日本でも有数の荒海に静穏な500ヘクタールの湾が出現する。この海で海洋牧場を作りたい。コンブ棚の上で釣りをしたり、県北の海の研究をしたり、都市の親子と海の大切さを学ぶのだ。ココは金儲けだけではない、人間の原点、尽きないエネルギー作りのできるところ。都会の甘ったれどもの来るところではないが、金は奴らが持っている、圧倒的に。戦争やとてつもない地震でも来ればこの大切さが分かるはずだ。尽きないエネルギーの開発必要性をを考えている奴なら誰でもいいと言うわけにも行かないし。

漁業支援へ窯元入魂



久慈・小久慈焼の下獄さん

海藻養殖用ブロックを

5年がかり
地元碎石使い
コンブ

久慈市小久慈町の小久慈焼窯元・下獄さん(67)は、約五年かけて海藻養殖用ブロックを製作し、漁業者の注目を集めている。地元の碎石が原料で、従来のブロックに比べて海藻の難敵である貝類の付着防止効果が高いなど、効率的な養殖が可能とされる。育った海藻はウニ、アワビの餌となり、久慈地方を代表する伝統工芸の技が地域の「つくり育てる漁業」を押し上げる。

ブロックは高さ約10センチ、幅約22センチ、奥行約15センチで重さ4・6キロ。表面に多くの亀裂や穴を付けることで海水の透過性を高め、貝類が付きにくくする。一方、コンブの若芽が根を張る場所を作り、発育率の向上を狙った。従来のブロックは表面

2005.3.28 岩手日報夕刊の記事より。小久慈焼きで開発した画期的な焼き物です。右ページ久慈湾港開発のイメージ図は工業や観光が中心になっていますが、湾港防波堤の設置は穏やかな海が作られ、海藻の増殖や生物繁殖に適した海になります。ただ海藻は汚れに弱いためクリーンな海域を保つことが必要条件になります。すなわち川をいかにクリーン・グリーンに保つにかかっているのです。

コンブ増殖の成功はウニ、アワビの生産を増やすだけでなく、食物連鎖によって魚も増えることになります。また浄化された湾内はホッキ貝など昔多かった天然魚介類の増にもつながります。

写真は左写真養殖ブロックに成長したマコブ。コンブはウニ・アワビや魚介類増殖のほか、食料品や調味料、バイオマスエネルギーにも利用でき、限りない産業開発の大きな資源となります。海藻や魚の残滓はメタン発酵により新エネルギーに活用出来るでしょう。湾港開発の多様なソフトの基礎になるかもしれません。ブロック一個二百キロのコンブが付きます

